



東明小学校の子どもたち ~全国学力学習状況調査の結果より~



右の問題は、小学校第6学年を対象に4月に行われた全国学力・学習状況調査「算数」の問題です。お店でよく見かける表記ですね。この問題は、日常生活における割引や割増などの割合が用いられている場面を、割合の意味を基に捉えることができているかを問うものでした。正解は、「2」。

本年度の全国学力・学習状況調査の教科に関する調査は、毎年実施される国語科と算数科に理科(3年に1度程度)を加えた3教科で行われました。出題は第5学年までの内容で、「知識・技能」及び「思考力・表現力・判断力」を総合的に問うもの。選択式、短答式、記述式と様々な形式で出題されます。また、生活習慣や学校環境に関する質問紙調査もタブレットを使ったオンラインで行われました。

この調査の結果から見た東明小学校の子どもたちの様子の一端をお伝えしたいと思います。

1. 教科に関する調査

(1)国語:正答率は、岐阜県平均をやや上回り、全国平均と同程度。

・「知識・技能」に関する問題の正答率は全国平均を上回りました。

・「書くこと」に関する問題の正答率が低かったです。

(2)算数:正答率は、岐阜県平均、全国平均を上回る。

・5領域(「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」)全てで、正答率が全国平均を上回りました。

・「割合」に関する問題の正答率が低かったです。

(3)理科:正答率は、岐阜県平均を上回り、全国平均と同程度。

・思考・判断・表現は全国平均を上回りました。

・「電気と電磁石の強さ」に関する問題の正答率が低かったです。

2. 質問紙調査

◇「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」の質問に肯定的な回答をした児童が多く、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の質問の肯定的な回答の割合は100%でした。

◇「学校に行くのは楽しい」「先生や大人にいつでも相談できる」の質問では、肯定的な回答の割合は全国平均と比べると低かったです。

基礎的な学力が身につけていることとともに、東明小学校の笑顔のもと「すすんで・なかまと・おわりまで(す・な・お)」が育まれていることが、東明小を代表する6年生の姿・意識に表れており、うれしく思います。学校での取組はもちろん、ご家庭や地域での支えのおかげです。ありがとうございます。今後は、東明小学校がどの子にとっても安心できる場所、楽しい場所となるよう、一層子どもたち一人一人の声に耳を傾け、指導・援助に力を入れていきたいと思っています。

(教務主任 大澤伸二)

増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上のアにあてはまる数を下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 0.1 2 1.1 3 10 4 110